

# はじめの一步

杉並区立高南中学校

第1学年通信

令和4年11月2日

第16号

## 「合唱祭までの道のり」

(1年の某先生の作文)

夏休み前からスタートを切っていた合唱祭。7月の暑い時期から合唱祭実行委員会の活動、伴奏者の練習、ポスター制作など、着々と事は進んでいた。

そして2学期が始まった。9月は校外学習の事前学習やコース決め、生徒会役員選挙、中間考査など多忙な日々を追われていた。校外学習から無事に帰って安堵したのも束の間で、ふと気づくと合唱祭まで1ヶ月を切っていた。私は焦った。指揮者が決まっていないクラスもあれば、音程が取れていないクラスもある。私たち1年生担任陣は音楽的な指導をするのはかなり厳しい！ この状態をどう打開していったらいいだろうか。

10月半ばから合唱祭の練習が始まった。合唱祭実行委員が前に立ち、クラス全員へ指示を出した。練習後には反省会を行い、気づいた人が積極的に意見を出した。音楽科の長島先生が練習を覗きに来てはアドバイスをしてくれた。そんな毎日を重ねるうちに、A組もB組も歌う姿勢が変わった。実行委員のアドバイスも具体的なものになり、クラス全体の雰囲気も変わった。

練習内容は必ずしも満足のいくものばかりではなかった。初めて経験することには失敗も付きまとう。しかし、今年の1年生には失敗を失敗で終わらせない力がある。生徒同士で意見を伝え合ったり、フォローしたり、励ましたり、朝練習に付き添った



りしてきた。

本番が始まる前に、私たち1年生だけのドラマはもう始まっている。いろんな事を抱えて、乗り越えて迎える合唱祭。それを間近で見てきて、感動の渦でもう泣きそうになっている。涙もろいのは年のせいかな。本番はバスタオルを抱えているかもしれない。



### 《合唱祭の確認事項》

日時	令和4年11月4日(金)
会場	杉並公会堂
集合	一般生徒・保護者とも 12:00 係生徒 11:30 ※ 公共交通機関を利用してください。
服装	標準服(冬服)、校章・クラス章
持ち物	交通費(ICカード可)、水筒、楽譜、プログラム、ハンカチ、ティッシュ、予備マスク、生徒手帳、筆記用具 ※ 持ってきてはいけないものは普段の学校生活に準じます。

- ◎ 午前中は自宅学習となります。
- ◎ 早めの昼食を済ませて出発してください。
- ◎ 感染症対策として、急遽プログラムに変更が生じました。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

**【保護者の皆さま】**1年生は初めての合唱祭を控え、行事を楽しみにしている反面、緊張や不安も抱えています。しかし、A組・B組合同練習を行い、互いに切磋琢磨してきました。本番は是非とも温かい(心の中の)声援をお願いいたします！

【下町校外学習の作文】先生方の付き添わない班行動でしたが、どの班もほぼスケジュールどおりに行動でき、ケガや事故もなく、持ち前の行動力を発揮しました。

「校外学習」

個人情報につき消去しています。

私たちは10月14日、校外学習に行きました。最初に行った見学地は地震の科学博物館で、実際に地震の体験をしました。とても揺れが大きい地震を体験し、震度5弱くらいからは立っていることも大変でした。地震の科学博物館でもう一つ体験したことは火事で煙を吸わないようにする体験です。煙は上に上がっていくので、自分たちは姿勢を低くして歩きました。私は最後の方に歩いたのですが、辺り一面真っ白で何も見えないので、壁を触りながら進んでいきました。煙は上に上がっていきませんが、2～3分くらいで下に下がっていくということを知りました。

その次に行ったところは浅草寺です。「雷門」と書かれている門をくぐって、そのまま真っ直ぐ行くと商店街のようでした。よく見ると外国人もたくさんいて、日本の中で有名な観光地の一つだと改めて思いました。家族にお土産で人形焼きを買い、次の見学地に向かいました。

その見学地は浜離宮庭園です。途中でカメやカニなどに出会ったりして、とても自然豊かだと思いました。都会とは思えないほど広く、きれいな景色でびっくりしました。池の水にビルが映っていて、都会だからこそ見れる景色だと思います。お店などがなく、小さな屋台みたいなものがありました。食べることはできなかったですが、とてもきれいな景色を見ながら食べるのは絶景だと思うので、プライベートで来てみたいと思いました。

次に行った見学地は国立科学博物館です。日本館と地球館があり、私たちは地球館に行きました。社会の歴史で学んだ人類の歴史や、理科で学んだ地層、数学で学んだ座標など、今まで学んできたことがたくさん出てきていると思いました。展示品も多くあって、虫や魚など色々なものが展示されていて、見ているだけで楽しかったです。

安全に皆で楽しみながら学べたと思いました。反省点は車を降りる時などに人の邪魔になっていることが多くあったので、今度からはそこをもう少し意識したら良いと思います。

「辿り着いた場所とは」

個人情報につき消去しています。

私たちはどこに着いたのだろうか。今言ったのは物理的に着いた所の話ではない。もしそうならば、この校外学習で行った施設を並べるだけでこの作文は修了してしまうだろう。私が言っているのは、この校外学習という経験から、最終的に何が一番大切であるのかという考えになったのかということだ。

この問いに対して、私は「責任」と答えたい。先に言うておくと、私には責任感というものが限りなく無しに近いのだ。仕事を頼まれても、その仕事を果たさないということがよくあった。

校外学習に行く前や、行っている途中には、責任感が限りなく無しに近い私が仕事を果たすことができるか心配だったのだ。1学期のフレンドシップスクールでは、一応「係」の存在はあったのだが、私はほとんど何もせずに仕事が終わった。そのため、学校行事で自分に「係」があるというのは初めてだった。今回は会計系の係長であるため、フレンドシップスクールのように仕事がないことは無いと思った。そこで私は「限りなく無しに近い責任感」を「無しとは言えない責任感」や、それ以上の責任感を持っている人になることができる機会だと思った。しかし驚くことに、今回も仕事と呼べる仕事なかったのだ。仕事がないため、失敗はしなかったのだが、持っている責任感を上げることはできなかった。

つまり、私の責任感の無さは校外学習という大きな行事があったとしても直すことができないということだ。そこで私はある答えに辿り着いてしまったのだ。それは今までに無くしてしまった「責任感」を元に戻すことは難しいことであるということだ。

このようなことから、私は校外学習で最終的に辿り着いた考えは「責任」であるということに気が付いた。